

IV. 業績の見通し

通期の販売電力量および売上高につきましては、至近の動向を反映した結果、前回公表値（平成29年10月31日）から変更ありません。

利益につきましては、供給力の状況を見極めていく必要があることから未定としておりましたが、泊発電所を年度内停止として、至近の火力発電所の稼働状況などを踏まえ、業績予想を算定しましたので、お知らせいたします。

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、前期に比べ、売上高は、販売電力量の減少はありますが、燃料価格の上昇による燃料費調整制度の影響や再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響などにより、増収となる見通しであります。

利益は、濁水による燃料費の増加や販売電力量の減少などがありますが、実施段階においても経営全般にわたり更なる効率化に取り組んでいることに加え、火力発電所の定期検査基数の減少による修繕費の減少や、燃料費調整制度のタイムラグによる差損が縮小することなどから、増益となる見通しであります。

この結果、売上高は7,280億円程度、営業利益は280億円程度、経常利益は140億円程度、親会社株主に帰属する当期純利益は120億円程度となる見通しであります。

期末配当予想につきましては、業績を見通すことができず、これまで未定としてきました。

この度の通期業績予想を踏まえ、普通株式の期末配当金については前期と同額の1株当たり5円とし、A種優先株式の配当については定款の定めに従い実施する旨、配当予想を修正いたします。

○ 連結業績見通し

30年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

| | 通 | 期 | |
|---------------------|-----------|-------|-----------|
| | | 対前回増減 | 対前期増減 |
| 売上高 | 728,000 | 同程度 | 25,000 |
| 営業利益 | 28,000 | — | 1,000 |
| 経常利益 | 14,000 | — | 1,000 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 12,000 | — | 3,000 |
| (対前期増減率) | (△6.7%程度) | | |
| 販売電力量 | 250億kWh程度 | 同程度 | △18億kWh程度 |

○ 単独業績見通し

30年3月期単独業績予想

(単位：百万円)

| | 通 | 期 | |
|-------|---------|-------|--------|
| | | 対前回増減 | 対前期増減 |
| 売上高 | 698,000 | 同程度 | 21,000 |
| 営業利益 | 22,000 | — | 2,000 |
| 経常利益 | 8,000 | — | 2,000 |
| 当期純利益 | 9,000 | — | 4,000 |

※ 対前回増減は、平成29年10月31日に公表した業績予想との差を記載しております。

※ 通期の為替レートは113円/\$程度（1月以降115円/\$程度）、原油CIF価格は57\$/b1程度（1月以降65\$/b1程度）として想定しております。